

ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

第1回 ウクライナ、政治的一体性を欠いた独立

2024年2月7日
エコノミスト 西谷公明

はじめに

- ・自己紹介、問題意識、全体構成

1. ソ連崩壊とウクライナ独立

- モスクワ8月クーデター後、キエフを訪れる
- ・「平穏なる独立」、背景と意味
 - ・ロシアはなぜウクライナを引き留めたか？
 - ・五穀豊穣、多様な産業基盤
 - ・国民経済は如何にして形成されるか
 - ・民族独立派主導の国造り
 - ～ルーブルと訣別、フリブナ発行へ
 - ～ロシアとの確執～ハイパーインフレに見舞われる

2. 内なるロシア、内なるヨーロッパ

- 過ぎし時代の記憶
- ・「キエフ・ルーシ」、キエフを都とするルーシの公国について
 - ・コサック国家とモスクワ公国～ロシア帝国の形成～ロシア化とウクライナ民族主義
 - ・西ウクライナ、非ロシアの歴史～「ユニエイト」（東方典礼カトリック教会）とは？

マイダン政変について

- ・「10年毎に革命が起きる」国
- ヤジロベイの如く：1994年東へ、2004年西へ（オレンジ革命）、
- いたん東へ戻るも、2014年再び西へ（マイダン政変）
- ・北米ウクライナ系移民の祖国愛～インターナショナル・コミュニティ

以上

ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

第2回 ロシア、彷徨えるアイデンティティ

2024年2月14日
エコノミスト 西谷公明

前回のおさらい

1. 復活する資源大国

- ・プーチンがロシア国民の心をつかんだ日
- ・ロシア史におけるソ連崩壊
- ・ロシアはなぜウクライナを引き留めたか？
- ・資源大国ロシアの復活

2. ロシア進出の経験から

- ・オイルロケット～オレンジ革命の影
- ・ロシアのお国柄とロシア人
～強大であること、すなわち美～猛々しい野性～運命に従う寛容さ～幾度か天を仰ぐ
- ・2022年10月、元部下たちとの再会

3. 北のフロンティア国家

- ・2015年夏、モンゴル草原にて
- ・ロシア領土の特殊性～本国と植民地が陸続きであること～“民族カースト”
- ・ロシア史は中央集権国家の歴史である
～変わらないレジーム～モンゴル支配の母斑？
- ・プーチンのロシア～資源大国の実像
- ・ロシアはクリミアを手放さない
～ロシア史におけるクリミア～対NATO安全保障の要（かなめ）

以上

ウクライナから見たロシア、ロシアから見たウクライナ論

第3回 冷戦終結後の30年を俯瞰する

2024年2月21日
エコノミスト 西谷公明

前回のおさらい

1. 歴史は4度、繰り返す？

- ・国力の遠景：GDPと経常収支の比較
- ・崩れないロシア
 - ～制裁の影響は？～強さの背景にあること
- ・苦境に立つウクライナ
 - ～“パン”も“銃”も西側頼み～西側の支援が途絶える日

2. 問題の根っ子はどこにあるか？

- ・ソ連崩壊と国境線の画定
- ・ウクライナにおける民族と領土
- ・クチマ政権（1994-2004）vs ゼレンスキーポリシー（2019-）
- ・独立ウクライナの30年：
 - 政治：地政学的な選択と民族主義の圧力に突き動かされる
 - 経済：発展の可能性を生かせず、国民生活の向上に失敗
 - 畢竟、戦争は政治の延長である

3. まとめ：国際社会の正義が揺れる時

- ・冷戦終結から30年
 - 理念：“力による国境変更を許すべからず”
 - 現実：分断され、対立し、不安定化する世界
 - （背景に、中国の強大化とアメリカの変容、一強権国の揺らぎあり）
- ・最後は、リアルな現実が帰趨を決める（=ウクライナ国民自身が決めるべきこと）
- ・ウクライナ復興への希望：ロシア敵視でまとまる国民～強さが試されるのは停戦後
- ・ロシア：外を“銃”で固め、（西側との関係では）内を向く社会へ（イラン化）
 - “ソ連崩壊後”は、いまも続く長いプロセスである

以上